

飯島賢二の

やさしく解決！ 難問道場

第45回



株式会社 飯島 綜研 代表取締役 飯島 賢二

Q 会社における「よい人材」の要件とは何でしょうか？

A

……私は、ずっと以前でしたが、当時の年若き社員に、得意先から「松下電器は何をつくらせるのか」と尋ねられたならば、「松下電器は人をつくらせるのでございます。あわせて電気商品をつくっております」ということを申せと言ったことがあります。

その当時、私は「事業は人にあり、人をまず養成しなければならない、人間として成長しない人を持つ事業は成功するものではない」ということを感じており、ついそういう言葉が出たわけですが、そういう空気は当時の社員に浸透し、それが技術、資力、信用の貧弱さにもかかわらず、どこよりも会社を力強く進展させる大きな原動力となったと思うのです。……<松下幸之助『一日一話』(PHP研究所)より>

「経営の神様」と多くの人から尊敬された、松下幸之助翁の言葉です。「松下電器」という社名が消えるのは一抹の寂しさがありますが、あの世界的大企業である「パナソニック」の根底を支える理念でしょう。

一方で、我々中小企業は従業員が少ないにもかかわらず、意識もなく、目標も持たず、アンテナも伸ばしていない、一般常識すら疑いたくな

る、そんな人を目撃することがいかに多いことでしょう。中小企業に限った話ではないでしょうが、何とも情けない限りです。

この原因はどこにあるのか、本気で考えてみた結果、松下幸之助翁の言葉にぶち当たりました。社長も、部長も、従業員も、「いかにいい商品を販売するか」、そればかり考えていたのです。お客様に本当に喜んで頂き、心から感謝されるということは、単なるいい商品を用意すればいいということと違います。お客様の気持ちや痛みを理解し、その心に報いていたか、本当に欲しいと思った時にタイムリーに提供できたか、色々な条件の無理強いはなかったか、そんな完璧なる気遣いの後、当然ながら「いい商品・製品・サービス」を提供すること、ここで初めて、お客様の感動が湧き上がってくるのかもしれない。

お客様の目も顔も、そして心を見ることが出来ず、毎日、平々凡々と過ごす人にはこんなことできる筈がありません。かなりのスキルを有する者のみが成しえる技です。つまり、いかに優秀な人材が何人いるかで、その企業の業績が決まってくると言っても過言ではありません。物をつくる前に「人」をつくる、ここに全ての「源」があったのです。

「これからも、ずっと中小企業の強い味方であり続けたい…」

日本経済を支えている中小企業をあらゆる面からサポートし、ご満足いただく。ここに、当社の存在価値があります。

IKG 株式会社 飯島 綜研

代表取締役会長 飯島 賢二
税理士・中小企業診断士

〒360-0024 埼玉県熊谷市問屋町2-4-18 ソンオ熊谷情報センター2F TEL 048-528-2191 FAX 048-528-2197
IKGホームページ <http://www.ik-g.jp>